

被爆 79 年 被爆者と二世が語る

被爆の証言と原爆展

高校生による朗読劇もありますー

核脅迫を続けるロシアのウクライナ侵攻、非人道行為を繰り返すイスラエルのガザ攻撃。核兵器禁止条約や国際人道法を踏みにじるこのような行為は決して許されることではありません。

そのような中、平和への願いを込めて、被爆者は今年も自らの被爆体験を語ります。核兵器は絶対に使ってはなりません。廃絶しなければなりません。

また親の被爆体験と二世としての思いを被爆者の子どもたちが語ります。そして今回は高校生が、北海道の被爆者 3 名の手記を読む朗読劇を披露します。被爆者の平和への願いはいま徐々に次の世代に受け継がれようとしています。

あわせて原爆投下・被爆の実相を物語るパネル展と遺品の展示も行います。多数の皆さんのご来場をお待ちしています。

7月17(水)と18日(木) 9時～16時 会場:北海道庁 1F ロビー

語り部 両日とも、①10時半～ ②11時15分～ ③14時～ ④15時～

<17日>

川去裕子(二世) 被爆した父は私たちにほとんど語らなかったが克明な日記があった。

金子廣子 原爆に翻弄された家族と自分の人生を「福島」を契機に語り始める。

中村政子 大きな障害を抱えて生まれた弟(二世)の21年間の生涯。

溪口正裕(二世) 子どもたちに原爆をどう伝えるか。小学校教師としての実践。

<18日>

大村一夫 原爆は助かって終わりではない。その後も続く核兵器の恐怖。

宮本須美子・松本郁子 長崎・広島で被爆した二人。原爆は二人に何を残したか。

土谷節子(二世) 寝物語のように娘に語ってくれた母の被爆体験、そして二世の思い。

札幌南高(定)生徒朗読劇 モザイク画「嵐の中の母子像」の前で被爆者の手記を読む。

主催 北海道被爆者協会 共催 被爆二世プラスの会北海道

北海道被爆者協会は来年3月末に解散しますが引き続き被爆者連絡センターが活動を継続します。ノーモア・ヒバクシャ会館の展示は今後もご覧いただけます。